

## 学会参加奨励金報告書

学籍番号：R22-014

名前：上青木彩可

学会名：第 60 回日本赤十字社医学会総会

開催場所：仙台国際センター

開催期間：2024 年 10 月 17－18 日

### 1. 学会参加の感想

#### 【公聴・展示内容】

##### ・「アンギオ検査チームの散乱線被ばく教育」

放射線技師の仕事のひとつに、放射線診療従事者に対しての放射線安全教育があるが、具体的にどのように行われているかは知らなかった。教育訓練で使われた資料などが挙げられていて、放射線防護の三原則や線量計を付ける位置、透視中に被ばくしやすい場所など、必要最低限のことをイラスト付きで簡単に示されていた。これらは、放射線について深い知識がない他のスタッフに対して短時間で理解してもらうための工夫だと考えた。また訓練後、確認テストが行われており、理解度の分析、および資料の改善にも繋がっていた。放射線業務に携わる全スタッフが安全に働ける環境を作る重要性を学んだ。

##### ・低侵襲手術支援ロボット“ダヴィンチ”の体験

会場には多くの医療機器メーカーの商品紹介ブースも並んでいた。そのひとつに、低侵襲手術支援ロボット“ダヴィンチ”があった。ダヴィンチは医療ドラマの中で使われ動いている様子を見たことがあるが、実物を間近で見たのは初めてだった。これだけでも貴重な経験だが、さらに操縦席に座りファントムを用いた操作体験もさせていただいた。手術画像は立体的な高画質で、距離感もつかみやすく、自分の思い通りの動きが再現された。このような機械がすでに臨床現場で使われており、複雑で難しいとされる手術を可能にしていると思うととても心強いと感じた。しかし、精密な手術をするためには、それと同じぐらい細かく見やすい画像が必要である。それをつくるのが放射線技師の役目で腕の見せどころにもなるため、働いてからも日々精進しなければならないと思った。

## 【まとめ】

学会参加の目的に上げていた、学会の雰囲気味わうこと、発表の工夫を学ぶことについては達成できたと思う。パワーポイントは文字が少なく、グラフや表のみのスライドもあり、見やすさ重視で作られていることを学んだ。また発表後の質疑応答では、質問者は名前と所属病院、発表に対するお礼の言葉を添えてから質問し、発表者は質問に対するお礼の言葉を添えてから質問に答えるなど、学会の基本マナーを学んだ。

口演の内容に関しては、やはり、今の知識だけでは全て理解できず難しいと感じる内容も多くあった。これから講義を通して知識をつけていきたいと思う。

研究した内容を、それに携わる人たちの前で発表するのはとても緊張すると思うが、発表後は大きな達成感を得たり、今後のモチベーション向上にも繋がったりするのではないかと考える。

学会参加にあたり実験への配慮をいただいた桑原先生をはじめ、引率して下さった平田先生、共に学会に参加した平田ゼミのみんなに深く感謝申し上げます。

2. 現地参加がわかる写真(4枚)

